

もくじ	
▽2010年 新年のご挨拶	1
▽大会案内	2
▽国際会議案内	3
▽研究部会レポート	4
▽シンポジウムレポート	4
▽今後の学会関連行事	6
▽from Editors	7

2010年 新年のご挨拶

会長 勝浦哲夫



日本生理人類学会会員の皆様、本年も明けましておめでとうございます。今年も皆様にとって輝かしい一年になりますよう祈っています。

昨年は、8月の総選挙で民主党を中心とする政権に交代するなど政治の世界で大きな変化がありました。1月の米国オバマ新大統領の就任もあり、世相を表す「今年の漢字」として「新」が選ばれました。会員皆様にとっても新しい何かが始まった年だったでしょうか。

本学会関連の活動に目を移すと、6月6-7日に横山真太郎大会長の下に北海道大学で第60回大会が開催されました。横山大会長の特別講演「生理人類学の周辺散歩 次世代研究者へのメッセージ」と、2つのシンポジウム「フィールドワークの方法論を巡って」(司会:青柳潔先生)、「生活活動を取り巻くヒトの多様性」(司会:井上馨先生)を始めとして、71題の一般口演、ポスター発表があり、大変りっぱな素晴らしい大会になりました。ポスター発表についても講演会場で3分間の口頭発表があったのは大変良い企画だったと

思います。また、懇親会で北海道大学応援団の面々と肩を抱き合い一緒に「都ぞ弥生」を歌ったことも今でも心に強く残っています。

9月26-27日には市丸雄平大会長の下、東京家政大学で第61回大会が開催されました。市丸大会長の大会長講演「臨床よりみた心拍変動」と、2つのシンポジウム「人類は何をどの様に食べるのか」(司会:甲田勝康先生)、「人類はいつどの様に眠るのか」(司会:樋口重和先生, 小山恵美先生)、そして39題の一般口演、ポスター発表がありました。2つのシンポジウムでは、「食」と「睡眠」という人類にとって最重要な問題を取り上げ、自然人類学・生理人類学の視点からの大変興味深いご講演を戴きました。会場からの活発な質疑もあり、大変意義深いシンポジウムになりました。前大会から3ヶ月余りという大変タイトなスケジュールであったにも係わらず、とても充実した大会になりました。

9月に丸善より初の本学会編「カラダの百科事典」が出版されたことも大変素晴らしいことでした。3年の歳月と、編集委員の皆様、執筆者の大変なご尽力により、169項目と10のコラムからなるA5判総頁数724頁の大変立派な書籍になりました。この出版を記念して、11月21日に「カラダの百科事典」出版記念シンポジウムが開催されました。編集委員長の佐藤方彦先生、安河内副会長と私とで行いました鼎談「カラダの百科事典

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

と生理人類学」では、生理人類学にまつわる歴史的な貴重なお話を伺うことが出来ました。引き続き行われましたシンポジウム「カラダの見方」では、樋口重和先生、工藤奨先生、恒次祐子先生、石橋圭太先生、下村義弘先生という生理人類学の新進気鋭の研究者からご自身の執筆内容を中心にとっても興味深いお話を戴きました。総合討論でも活発な質疑が行われ、とても良いシンポジウムになったと思います。シンポジウムのあとには、出版でお世話になりました丸善編集担当者の小林秀一郎氏、松平彩子氏にもご参加戴き、楽しい懇親会が行われました。

昨年最後の学会行事として12月12日に第3回研究奨励発表会が工藤奨先生のお世話により芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催されました。長岡技術科学大学、京都大学、関西大学といった遠方からの発表もあり、一昨年の約2倍の26題の発表がありました。自分の研究を発表し、人から意見をもらうことはとても勉強になることです。良い刺激を受け、更なる研究の発展を期待しています。

さて、今年は5月15-16日に井上芳光大会長の下、大阪国際大学守口キャンパスで第62回大会が開催されます。そして、10月30-31日には岩永光一大会長の下に千葉大学で第63回大会が開催されます。それぞれ多数の会員のご参加とご発表を期待しています。

また、9月9-12日には、Alan Bittles 会議長の下に、フリーマントル（オーストラリア）で第10回国際生理人類学会議が開催されます。メインテーマは「Peoples and Places」で、日本も含め世界中から多数の生理人類学研究者が集うものと思います。フリーマントルはパースから電車で30分位のところにある人気の観光地だそうです。海に面して、美味しいシーフードを楽しめるようです。円高の今、是非、奮ってご参加下さい。

さて、本学会の課題の一つであった英文誌 J. Physiol. Anthropol. のインパクトファクターの取得がついには現実のものになりそうです。今年1月から収録対象誌に選定され、今後英文誌に掲載された論文の被引用回数などによってインパクトファクターが算出されます。収録対象誌の採択率はわずか10-12%ですから、これも歴代英文誌編集委員会、投稿者、査読者などの大変なご努力、ご

協力の賜です。これからも良い論文を投稿し、インパクトファクターを上げていくように会員皆様のご協力を切にお願い申し上げます。また、もう一つの課題であります法人化についても一般社団法人（非営利型）への移行を目指し引き続き理事会で検討しております。その他、国際生理人類学連合（IAPA）の実質化、科研費などについても、理事会で検討し、良い方向に行くように副会長、理事、幹事などの役員共々頑張っていきたいと思っています。本年も会員皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

【大会案内】

第62回大会（2010年大阪）の お知らせ ー第1報ー

大会長 井上芳光
(大阪国際大学)

会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、生理人類学会第62回大会を下記の通り開催いたします。多くの方々の参加をお待ちいたしております。最新情報は学会ホームページをご覧ください。

記

- 1) 会期：2010年5月15日（土）、16日（日）
- 2) 会場：大阪国際大学守口キャンパス6号館
〒570-8555 守口市藤田町6-21-57
京阪電車「大和田」下車徒歩8分
 - a) 新大阪からJR（大阪、京橋）もしくは地下鉄（淀屋橋）を乗り継ぎ、京阪電車で約50分
 - b) 伊丹空港からモノレールと京阪電車で約50分
 - c) 関西空港からリムジンバス（守口行き）と京阪電車で約90分*アクセスの詳細は
<http://www.oiu.ac.jp/access/index.html>
をご覧ください。
- 3) 特別講演：5月15日（土）
九州大学大学院芸術工学研究院

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

栃原 裕 先生

演題「日本人と入浴」

4) シンポジウム：

「気楽に生理人類学（仮題）」

「体温調節からみた全身的協関（仮題）」

5) 懇親会：5月15日（土）午後6時より

本学食堂

6) 申込等の期限：

a) 発表申込：3月5日（金）

b) 抄録提出：4月2日（金）

c) 参加申込：4月2日（金）

7) 大会参加費および懇親会費（正会員の学生は学生料金とします）

a) 4月2日（金）までに振り込む場合

①大会参加費

正会員 6000 円，非会員 8000 円，学生 3000 円

②懇親会費

正会員 6000 円，非会員 7000 円，学生 3000 円

b) 4月3日（土）以後に振り込む場合

①大会参加費

正会員 7000 円，非会員 9000 円，学生 4000 円

②懇親会費

正会員 7000 円，非会員 8000 円，学生 4000 円

8) 大会事務局：

〒570-8555 守口市藤田町 6-21-57

大阪国際大学人間科学部 井上研究室内

日本生理人類学会第 62 回大会事務局

e-mail : jsipa62@oiu.jp

電話：06-6902-0791 内線 2363

会議長：Prof Alan Bittles

会期：2010年9月9日（木）－12日（日）

場所：Esplanade Hotel Fremantle,

フリーマントル，オーストラリア

メインテーマ：Peoples and Places

現時点で予定されているスケジュールは下記の通りですが、詳細については決まり次第お知らせいたします。

9月9日（木）：登録および歓迎会

9月10日（金）：セッション，若手の会

9月11日（土）：セッション，バンケット

9月12日（日）：セッション

メインテーマ「Peoples and Places」は Bittles 先生の研究テーマとの関連で移民を念頭に考えられたと思われませんが、加齢、時間生物学、遺伝、温熱、栄養などの分野の研究発表もできるようなプログラムの検討もされていますので、情報が入り次第お知らせいたします。

フリーマントルはパース市の南西約 20km に位置する港町で、第二次世界大戦時には、連合軍の潜水艦基地として使用されていたそうです。歴史のある建物が並ぶ町並みが有名で、週末には 1897 年から続く「フリーマントル・マーケット」が開催され、多くの観光客が訪れるそうです。

フリーマントルの情報はこちらから：
<http://www.fremantle.wa.gov.au/>

【国際会議案内】

第 10 回国際生理人類学会議のご案内

国際担当：原田 一（東北工業大学）

恒次祐子（森林総合研究所）

第 10 回国際生理人類学会議は、下記の通り、Bittles 先生 (Centre for Human Genetics, Edith Cowan University, Perth) のお世話により開催されます。

会員の皆様におかれましては、スケジュールの調整をしていただき、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。



Esplanade Hotel Fremantle

<http://www.esplanadehotelfremantle.com.au/>

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

問合せ先：

東北工業大学 原田 一

Tel: 022-304-5575

E-mail: h-harada@tohtech.ac.jp

若手の会問合せ先：

森林総合研究所 恒次祐子

Tel: 029-829-8310

E-mail: yukot@ffpri.affrc.go.jp

【研究部会レポート】

オフィス研究部会

榎本ヒカル

(労働安全衛生総合研究所)

オフィス研究部会の 2009 年度第 1 回講演会が 11 月 20 日に日本大学駿河台キャンパスにて開催されました。講師は、東北文化学園大学の柳宇先生と、北海道大学の横山真太郎先生にお願いし、それぞれ 1 時間程度のご講演をいただきました。柳先生のご講演は「オフィスの微生物汚染問題とその対策」と題して建築物内の微生物汚染、特に空調機を介した微生物汚染の問題についてご解説いただきました。昨今のインフルエンザや SARS 等の感染症拡大の防止が社会問題化している現状を鑑みると、室内空気室汚染をいかにして食い止めるかは産業衛生や公衆衛生からも重要な問題であり、大変興味深いご講演でした。

もう 1 題の横山先生のご講演は「ISO/TC159(人間工学) / SC5 (環境人間工学) / WG4 (総合環境評価) 活動とオフィス環境」というタイトルで、TC159 の現状について、環境人間工学の立場から詳細に解説していただきました。この分野の現時点での世界の研究動向をお伝えいただき、また今後人間工学的見地をどのようにオフィス環境設計に生かしていくかに関して、沢山のご示唆をいただきました。

次回の講演会は、来年度 4 月 2 日(金) 午後、日本大学駿河台キャンパスにて開催する予定です。講演内容は大建設の三浦邦弘様に「オフィス環境設計の実際と将来展望」を、また日本大学の池田耕一先生に「オフィスの空気環境について」をご講演いただく予定にしております。

なお、平成 21 年 8 月より、オフィス研究部会の部会長に日本大学理工学部建築学科教授・池田耕一先生がご就任され、伴ってわたくし・労働安全衛生総合研究所の榎本が幹事役を拝命いたしました。至らぬ点は多々あるかと思いますが、この部会活動を通じて研究活動結果を社会へ少しでも多く還元できれば、また、より沢山の現場の声を研究活動にくみ上げることができれば、と考えております。今後ともオフィス研究部会のさらなる発展にご協力・ご指導よろしくお願い申し上げます。

【シンポジウムレポート】

「カラダの百科事典」出版記念シンポジウムの報告

樋口重和

(九州大学芸術工学研究院)

2009 年 11 月 21 日に「カラダの百科事典」の出版を記念したシンポジウムが東京で開催されました。冒頭に勝浦会長から、この本は生理人類学会編として出版される最初の本であるというお話がありました。昨年、生理人類学会 30 周年記念シンポジウムが開催されたのがまだ記憶に新しいのですが、31 年目にして初めてというのはちょっと意外ではあります。まさに記念すべき一冊と言えます。最初の原稿依頼から出版まで約 3 年もの歳月を費やし、その間に幾度も原稿の修正が加えられました。長い年月を経てやっと日の目をみた珠玉の一冊とも言えます。

シンポジウムの前半は、佐藤前会長、勝浦会長、安河内副会長の 3 名での鼎談が行われた。久しぶりに佐藤先生の元気な姿を拝見できました。話はカラダの百科事典の執筆や出版にまつわるエピソードだけではなく、生理人類学の歴史に至るまで非常に興味深い話がたくさん聞けました。終始なごやかな雰囲気で行われた鼎談が、本書の執筆から出版までの先生方のご苦勞とそれからの解放を物語っていたようにも思えました。

後半はシンポジウム形式で行われました。シンポジストは執筆者の中から選ばれ、それぞれが担

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

当した内容について発表を行いました。タイトルも本の項目から付けられました。シンポジストも含めて改めてこの場で紹介すると、「生命の神秘—胎児の循環（工藤先生）」、「アロマセラピーの効果—おいの作用と個人差—（恒次先生）」、「自分のまばたきには気がつかない？—瞬目時に視覚抑制（石橋先生）」、「美しい箸使い—ヒトだけが使える道具（下村先生）」です。私自身も「ずれている外の時計と内なる時計—体内時計の謎」という内容で発表させていただきました。

テーマは非常に多岐にわたっておりますが、それぞれの発表が適応、協関、遺伝、発生などの観点から味付けされており、まさに生理人類学そのものといった内容でした。会場では活発な議論が行われたことは言うまでもありません。改めて生理人類学の幅の広さと奥の深さを実感させられました。今回の執筆や発表でわかったことは、生理人類学的に面白い研究テーマは周りにたくさんあるのだということです。執筆タイトルの数だけあるといっても過言ではないでしょう。今回の執筆をヒントに新しい研究をスタートさせることができるような気がします。またそうありたいと強く思いました。今回の発表だけではなく、本書の中には魅力的なテーマがたくさんあります。今回のシンポジウムで終わるのではなく、できればすべての執筆者の発表を聞けるような場が、どのような形であれ継続できるといいなと思いました。

シンポジウム後の懇親会では、編集をご担当くださった丸善出版社の方から、順調に売り上げを伸ばしているという話も聞きました。アルコールの助けもかりて、饒舌な夜が更けていった1日でした。



鼎談の様子（写真提供：石橋圭太先生）



シンポジウムの様子（写真提供：山崎和彦先生）

【今後の学会関連行事】

第4回研究奨励発表会

会期：2010年2月13日（土）

場所：九州大学芸術工学部 5号館1階 511教室
（福岡市南区塩原 4-9-1）

発表会参加費：1000円

懇親会参加費：一般3000円、学生1000円

連絡先：樋口重和（九州大学）

higu-s@design.kyushu-u.ac.jp

日本生理人類学会第62回大会

会期：2010年5月15日（土）・16日（日）

場所：大阪国際大学

（大阪府守口市藤田町 6-21-57）

連絡先：大会事務局

jspa62@oiu.jp

第10回国際生理人類学会議

会議長：Alan Bittles 教授

会期：2010年9月9日（木）～12日（日）

（9月9日（木）は登録および歓迎会）

場所：Esplanade Hotel Fremantle

（フリーマントル、オーストラリア）

連絡先：原田一

h-harada@tohtech.ac.jp

日本生理人類学会第63回大会

会期：2010年10月30日（土）・31日（日）

場所：千葉大学

（千葉市稲毛区弥生町 1-33）

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

from Editors

次号（3月末発行）の原稿締切は2月26日（金）

▽新しい年を迎え PANews も第 20 巻となりました。創刊号以来 20 年の学会活動を記録してきたことになるわけですが、過去の記事を読み返してみると当時のことが懐かしく思い出されます。発行時にタイムリーな最新情報をお届けすると同時に、将来に残す記録としても魅力ある編集を心掛けなければと感じています。会員の皆さまからの積極的な投稿もお待ちしておりますので、よろしくお願ひ致します。

▽2009 年 11 月号 (Vol. 19, No. 6) の会議録のタイトルに誤りがありましたので訂正します。

<誤> 2007 年度第 1 回総会議事録抄

<正> 2009 年度第 1 回総会議事録抄

会報担当理事：岡田 明（大阪市立大学大学院）
福島修一郎（大阪大学大学院）

PANews 編集事務局：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学大学院生活科学研究科

居住環境学講座 岡田明

e-mail akira.pegasus@nifty.com

〒560-8531 豊中市待兼山町 1-3

大阪大学大学院基礎工学研究科

生体計測学講座 福島修一郎

e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp